

ゲノムと時代を語るトークセッション

ゲノム談義

11月23日(土・祝) 14:00 ~ 16:00

会場 6F 会議室D

入場無料。当日参加を希望の方はお早めに受付までお申し出ください。

ゲノム研究は21世紀の社会において、最も重要なテーマのひとつとされています。「ゲノム談義」では、気鋭のオピニオンリーダーをゲストに迎え、最前線に立つ研究者を交えて、ゲノム研究のもつ時代的意義・社会的課題について闊達に語り合おうと思っています。京都会場では二つのテーマを設けます。ひとつは「文明の中のゲノム研究」。ゲノム研究を含む生命科学が大きく進展することで、人類文明はどのように変わっていくのか、新しい技術をどのように受け入れていけばよいのか、といった点を思い切って語ってみたい。もうひとつは「ゲノム医科学の社会的問題」。これも大きなテーマですが、ゲノム研究が真の意味で社会に根付くためには何が必要なのかを議論したいと思います。もちろん、議論の流れ次第で思わぬ方向に話題が展開する可能性もあります。どうぞお楽しみに。（加藤和人）

パネリスト



高田公理

(武庫川女子大学 生活環境学部教授)

1944年京都生まれ。京都大学理学部卒。シンクタンク研究員、愛知学泉大学教授を経て92年より現職。学術博士。専門分野は情報文明学、都市文化論、観光文化論。主な著書に「転生する風土－街を見つける、日本を歩く」「情報快樂都市－街を生かす空間美学」「都市化と食」など。日本未来学会理事。



河原ノリエ

(ジャーナリスト)

1961年富山生まれ。早稲田大学第一文学部卒。生命科学を個人情報集積の上に成り立つ、医療・研究・産業というひとつの円環として捉え、月刊誌などを中心に独自の視点で執筆を続けている。「生命科学における個人情報の使われ方を考える会」主宰。



小笠原直毅

(奈良先端科学技術大学院大学教授)

1947年高知県生まれ。1970年東京大学教養学部卒業、1975年東京大学理学研究科博士課程単位取得退学。金沢大学がん研究所助手、大阪大学医学部講師を経て、1993年奈良先端科学技術大学院大学教授。理学博士。



菅野純夫

(東京大学医科学研究所
ヒトゲノム解析センター助教授)

78年東京医科歯科大学医学部卒。83年東京大学医科学研究所ウイルス研究部助手。92年癌ウイルス研究部助教授。2000年より現職。

進行



加藤和人 (京都大学人文科学研究所助教授)

1961年京都生まれ。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。ケンブリッジ大学研究員、JT生命誌研究館主任研究員を経て現職。現在の専攻は、現代科学史・科学コミュニケーション。2002年4月よりHUGO(国際ヒトゲノム機構)倫理委員会委員。

